

APRW/JASPARC 報告書 2024

RTF(Regional Training Forum) in Asia Pacific



2024.3.19-24

日本(東京・代々木)

国立オリンピック記念青少年総合センター

CISV 日本協会



I. 開催概要

●APRW とは:

APRW (Asia Pacific Regional Workshop)はアジア太平洋地域で年に一度行われているワークショップ。以下の3つが並行して行われている。

* APAC (Asia Pacific Conference) 国や支部の代表が集まって行う会議

* プログラム等のトレーニング

* JASPARC (Juniors Asia Pacific Regional Conference) 16歳以上若いキャンプ経験者の会議

その他 Risk Management、脱炭素化社会の取り組みのコモンセッション、遠足、ウェルカムパーティーやフェアウェルパーティーは全員参加して行った。

●日程:2024年3月19日~24日

●開催地とテーマ:日本(東京)『桜~めぶき~』

今回の APRW&JASPARC のテーマは『桜~めぶき~』。長かったコロナパンデミックを乗り越えて、再び CISV 及び世界が動き出した様子を桜のつぼみがやがて咲き出す春に例えて、CISV の活動と世界の平和が長く続くようにと願いを込めてこのテーマが設定された。場所は東京の中心にあって交通のアクセスが良く、緑豊かで研修室、宿泊など充実した設備を備える国立オリンピック記念青少年総合センター(代々木)。

今回は開催国であった為、約一年前からスタッフが話し合いを重ねて、観光+体験型遠足、生け花パフォーマンスを取り入れたパーティーなど参加者がより楽しめる工夫が散りばめられたワークショップになった。改めてスタッフ及び、関係者の皆様に謝意を申し上げたい。



●参加国: 17カ国

●参加者数: 204名

●日本からの参加者:28名

APRW21名

APAC: 岩崎統子、今西淳子、平洋一、大門樹久世、千田奈穂

Essentials of Peace Education:倉橋みゆき、森はるみ

Risk Managementトレーニング:倉橋颯、加藤春奈

TTT(Train The Trainers)トレーニング:伊藤翔生、大門由依、小野加奈子、金谷玲子、川田歩、白石結莉

Youth Meetingトレーニング:宮田聖未、小島秀紀、後藤洋弥、富岡寛子、松原郁子

Step Upトレーニング:越部真

JASPARC 6名:能勢悠雅、西山世里奈、神谷佑志、鈴木結理、戸田宗佑、川野布美子

●日本人トレーナー・コーディネーター:2名

APAC: 木村緑

JASPARC:岩野亜美



●スタッフ:21名

実行委員長:千田奈穂

事務局: 今西淳子、平洋一、関口里絵、宮里かをり、河合真理、大門樹久世

関東支部: 坂田綾、木村緑、加藤春奈、越部真、宮田聖未、和田素、島崎裕介、Luna Crozier

東海支部: 森桜良、松岡奈保子

関西支部: 野上良治、星野絵里、能勢悠雅

国際スタッフ:今西勇人、今西 mook

他ボランティアスタッフ多数。



●参加費 APRW: US\$450 JASPARC: US\$390

●開催ワークショップ(または会議)

アジア太平洋年次会議(APAC)

Essentials of Peace Education(平和教育の本質)

Risk Managementトレーニング

TTT(Train The Trainers)トレーニング

Youth Meetingトレーニング

Step Upトレーニング

JASPARC(Juniors Asia Pacific Regional Conference)

●主なスケジュール

For RTF

Asia Pacific Regional Training Forum (RTF) RTF/JASPARC 2024 Tokyo, Japan								
Duration	Tuesday 2024/03/19	Wednesday 2024/03/20	Thursday 2024/03/21	Friday 2024/03/22	Saturday 2024/03/23	Sunday 2024/03/24		
BREAKFAST 7:30am-8:30am	Buffet Breakfast							
Plenary Session 90' 8:45am-10:15am	ARRIVALS	Parallel Session 1	Parallel Session 6	Parallel Session 12	Parallel Session 14	DEPARTURES Check out HOTEL by 9:30 AM		
Coffee Break 15' 10:15am-10:30am		Coffee Break						
2nd Plenary Session 10:30am-12:00p 90'		Parallel Session 2	Parallel Session 7	Parallel Session 13	Parallel Session 15			
LUNCH 12:00pm-1:00pm		Lunch						
3rd Plenary Session 1:15pm-2:45pm 90'		Parallel Session 3	Parallel Session 8	Group Photo Excursion 13:00 - 17:00	Parallel Session 16			
Coffee Break 2:45pm-3:00pm 15'		Coffee Break						
4th Plenary Session 2:00 PM - 8:00 PM 3:00pm-4:15pm 75'		Parallel Session 4	Parallel Session 9		Parallel Session 17			
Coffee Break 4:15pm-4:30pm 15'								
5th Plenary Session 4:30pm-5:30pm 60'		Parallel Session 5	Parallel Session 10		Closing Session			
DINNER 5:30pm-6:30pm 60'		Dinner						
6th Plenary Session 7:00pm-8:30pm 90'	Welcome Party at 6:00 PM	PACE Grants 2024 Common Session	Parallel Session 11 Long-term strategy 7:00-8:45	Common session Decarbonizing	Farewell Party/ APRW 2025 at 6:00 PM			
SOCIALS 8:30pm-10:00p 90'		Market Place Socials	Socials	Parallel Session Extra Trainers Feedback Socials				
CISV Training 1	Train The Trainers (TTT)		Conference 1	Junior Asia Pacific Regional Conference (JASPARC)				
CISV Training 2	Essentials of Peace Education		Conference 2	Asia Pacific Annual Conference (APAC)				
CISV Training 3	Risk Management		Common Session: TBC					
CISV Training 4	Step Up		CISV Hosting NA:	"Presentation of APRW 2025 Site"				
CISV Training 5	Seminar Camp							
CISV Training 6	Youth Meeting							

II 各ワークショップ(または会議)の内容と参加者の感想

1) APAC (Asia Pacific Annual Conference)内容と感想

【内容】

これは年に1度アジアパシフィック各国が集まる会議で RTF、JASPARC と並行して開催されます。インド、インドネシア、オーストラリア、韓国、タイ、中国、ニュージーランド、フィリピン、ベトナム、香港、モンゴル、日本からの参加者に加えて、PACE 財団、Governing Board、Regional Support、国際事務局から総勢 35 人が APAC に参加しました。

今回の会議の内容は以下のとおり。

- * 2023 年度各国でどのような活動を行ったか、どんな特色のある活動を行なったかなどの報告。
- * 世界全体でバランスよく開催されるように、国際から毎年各地域でどのプログラムをいくつ開催することが望ましいか数の通達がある。2025 年度アジアパシフィック各国の開催計画を国際からの案になるべく近づけるように、開催数の調整を行なった。
- * PA(promotional association)がプログラムを開催する時は co-host するか、host buddy を持つ必要がある旨再確認。(co-host は共同開催/host buddy はこれまでに開催経験が多い国がアドバイザーとして準備の段階からフォローするというもの。)
- * 海外からスタッフを招聘する手順再確認、また、ディレクターは開催国から出す必要がある旨周知された。
- * スタッフ、リーダー、JC はもちろん各支部委員も子供たちを理解し子供たちの安全のために、指定の safeguarding のオンライントレーニングを終了しておく必要がある。(支部役員向けのオンライン研修は今年度作成される予定)
- * PACE Foundation に関する説明: アジアパシフィックのしっかりとした基盤を確立し、この地域の発展のために、活動を支援している財団。JB 活動および Mosaic 活動への(申請が承認されれば)補助。前年に PACE Foundation から補助ももらったグループの活動報告が行われた。
- * 2025 年の APRW&JASPARC: タイで開催

【感想】

国際理事 大門樹久世



日本開催の APRW&JASPARC は 2016 年に続き 2 回目で、今回は国際理事として参加者を迎え入れる立場での参加でした。200 人を超える参加者のための、食事対応、到着便や出発便確認、宿泊部屋リスト作成、ビザ取得の書類準備、ウェルカムパーティー/フェアウェルパーティー/コーヒークレイク/遠足/受付/備品/会計/グッズ、、、実行委員長のなふうを中心に、準備委員会一人一人が仕事の合間の時間を見つけて1年かけて準備を行なってきました。準備委員会のライングループには活発な意見、アイデアが行き交い、連続して起こる問題にも担当者が的確に対応

ていきました。参加者のみなさんから「会が充実していた」「多くの人と交流ができてよかった」「遠足楽しかった～」「おやつも充実していた～」「食事も悪くなかったよ」という声を聞いた時には本当に嬉しく安堵しました。準備委員会、参加者、ボランティア、すべてのみなさんのご協力のおかげで成功した APRW&JASPARC だと思います。4支部の皆さんの献身的なサポートを間近で見るたびに頭の下がる思いでした。本当にありがとうございました。

日本協会理事・アジア太平洋地域メンバーサポートコーディネーター(MSC) 木村緑

2014年に初めてAPRWに参加してから今年で10年になる節目の年にホスト国の一人としてAPRWに参加でき、感慨深かった。コロナ禍で対面での開催がなかった3年間を除き、毎回参加している。私のCISV活動の原動力がここにある。10年前に初めて参加した時感じたアジアの人々の寛容さと笑顔は今でも変わらない。常に笑いとウイットに富んだ研修、年齢や性別に関係なく対等に議論し違いを認め合える環境、こんなに恵まれた研修機会は世の中に滅多にないと思う。

私はメンバーサポートコーディネーター(MSC)として

アジア太平洋の代表者会議 Asia Pacific Annual Conference (通称 APAC)の進行をフィリピンのボビットと一緒に担当した。この3年、CISVは体制や運営方法が目まぐるしく変化してきた。その変化を理解し更に今後どのようにこの地域が目指していくのか、いろんな側面から一緒に考える機会となった。加えて、各国の代表との隙間時間のミーティング、会議の進行の打ち合わせ、日本開催の実行委員としての対応など1日が矢のように早く過ぎていった。それでも1年に1回、顔を見ながら各国の参加者と課題について話し合えるのは、お互いを理解するために欠かせない。アジア太平洋のみんなとCISV国際をつなぐ喜びとチャレンジを感じた5日間であった。

日本でのAPRW/JASPARC開催では実行委員長を主としたチームワークの良さ、個々の実行委員の責任感と能力の高さが無事に開催できた最大の要因と思う。携わったすべての方々に感謝したい。



2) Essentials of Peace Education の内容と感想

【内容】

CISV の概要

CISV の歴史

* 1951年に設立以降

* CISVの歴史と自分の人生の経過を重ねてみる。

CISVの基本理念:

Human Right, Diversity, Sustainable Development, Conflict resolution

CISVの組織構造:

Chapter, Training, Risk Management, Education Program, JB

CISVのプログラムの種類と対象: Village, Youth Meeting, Step up, Seminar Camp など。



【感想】

日本協会理事 倉橋みゆき

今回、8年ぶりの日本開催ということもあり、勇気を振り絞って参加してみました。自分自身、ビレッジ、JCを経験していたものの、APRWは初めての参加であり、英語の壁など戸惑いながらのスタートでした。このクラスは「CISVとは？」からの初級編でした。トレーナーとクラスメイトのような雰囲気、学生時代に戻ったような気分で楽しかったです。キッズが行うようなゲームやエナジヤイザーをやってみたり、チームに別れてのセッションやディスカッションはとても考え



深いものでした。自分自身の価値観や考え方、物事の捉え方などを振り返り、また、あらたな価値観に触れることで、ブラッシュアップされていくのがわかりました。

大人でもまだまだ学ぶ余地はあること、楽しみをみつけられると感じた5日間。友情が生まれ、クラスの結束が生まれ、一体感を感じられる経験は、大人になってからは、そうたくさんあるものはありません。今回貴重な体験をさせていただき感謝いたします。今後とも、クラスメイトとの友情を育みながら、CISVを楽しんで活動したいと思います。

東海支部支部長 森はるみ

私自身、初めてのプログラム参加でした。APRWとは、何をしているのかなあ、という好奇心と日本開催でチャンスを頂いたため、英語の大きな壁はありましたが思い切ってチャレンジしてみました。

英語が面白いぐらい分からない私、なのに、10名のクラスメイトは分かり易い英語で話してくれたり、トレーナーのノビは課題を先に提示してくれたり、皆さんに沢山フォローを頂き何とか研修に参加する事が出来ました。日本から参加の相棒とグーグル翻訳にも感謝です。

同じ思いの人々が集まっている為か初めて会った人々なのに、昔から知り合いのようなクラスメイトでした。時には議論したり、母国語を教えあったり、文化について話したりと楽しい時間を共有する事ができました。不思議と国籍よりどこの支部なの？との会話が中心でした。

今まで、国籍を気にしていた自分に自問自答するきっかけになりました。

子ども達がキャンプに参加した後、次のキャンプに参加したくなる気持ちが理解できました。毎日がとにかく面白いことの連続でした。一つの課題に対して、自身の考えを伝えることの難しさや、他人の考えを聞く機会も少なかったなと感じました。英語の壁がある中、次もチャレンジしたいと思いが沸き出ている自分がいます。とても貴重な体験ができた事に感謝します。



3) Risk Managementトレーニングの内容と感想

【内容】

(リスクマネージャーの役割)

四つの指標があり理解度に応じて色を変えシールをはった→不安・理解・そこそこ

*良いリスクマネージャーは ASK に分けた→attitude/skills/knowledge

Risk Management の基本

*支部、NA ごとにリスクマネージャーが必要→たくさんの認定を受けている。登録されているかどうか

*リスクマネージャーの主な仕事と責任

→ポリシーを確認してみんなに伝える(全国)

→IRF の調査(全国・支部)

→危機管理と方針の決定(全国・支部)

- 各支部の Risk Manager に権限を与える(全国)
- 支部委員にいないといけない(支部)
- 個人や活動においてでるリスクのサポート(支部)
- プログラムが合法かつ安全であることを保障する監督(支部)



キャンプ中に IRF になることが起きた、その時どう対応するか
 →事前準備、起きてからすること、落ち着いたらすることに分けた
 Guide、Policy、rule、などを重要度ごとに分けた

→その中でも重要度が高いのは U-14 Risk Manager Role profile,
 Safeguarding Policy,R-7Positive Behavior Policy。 COVID-19 のものは緩和されつつある。

ソーシャルメディアとデジタルの Safe Policy→子供たち、自分、CISV、他者の権利を守ることが優先される

*ソーシャルメディアのメリットとリスク

- 全世界での情報共有が可能になる(メリット)
- 有害なコンテンツを子どもが見れる可能性が上がる(リスク)

優れたリーダー像→例えば...Global friendship、Open mind 等

リスクマネージャーとしての役割

- 面接などに直接関わらなくてもいいこと(責任)は知っておく必要がある
- しかし採用する人はポリシーや Guide line に従わなければならないことを伝える必要
- 信頼と責任の立場にある人→活動やプログラムを提供する際に責任が生じる(スタッフ以外も可)
- 広報に関して→作成する責任はない、ただし必要事項が含まれているか確認しなければならない

・必要記入事項→Website のリンク

- 役割のプロフィール
- 検査に関する表明
- ボランティア活動の利点
- 献身
- Vetting Checks

Vetting Checks とは？

- 身元の確認:免許やパスポートなどを My CISV と相互で確認して確かめる
- 適性チェック:面接や審査すべてを通して偏見やアルコールなどの Kids に対し、悪影響のありそうな人を採用してはならない
- 自主的宣言:注意義務を果たすこと妨害することをしてはいけない。そのための署名
- Health & Behavior フォームの提出

*上記により懸念事項が発生した場合対処しなければならない

- 少なくとも2つ以上の書面が必要
- 審査員は家族であってはいけない(審査員は一年以上の知り合いである必要がある)
- 応募者が今までに子供たちと働いたり、ボランティアに参加しているかどうか
- 推薦状を受け取ったら採用担当は推薦者に電話し、確認を終えてから追加情報を取得

*CISV活動に参加するボランティアの全てが会員である必要がある

事例を元に事前にすべきこと、Incident が発生したときに何をすべきか、次にすること
 の3つに分けて考えるセッションをした。

リスクとは？

”危険な出来事が発生する可能性と発生した出来事による損害の大きさ”

・リスクの評価ってどのようにして行われているの？

→リスクを予想・特定・見積もる

→見積もるとは起きる可能性と結果の深刻度を考慮すること

【感想】

関西支部 倉橋颯

リスクとは何か、どのようなことが想定されるのかを学びました。

私は JB に所属しており、子供たち(Kids)と密に関わる機会が多く子供たちへの安全の指標や親御さんへの安心感を与えればと思い RM のワークショップに参加しました。

今まで子供たちと接しており、JB という大学生以下の人たちにお子さんを預けてもらうことに今まで以上に危機感を求めなければならぬと感じました。

リスクとは常にどこにでもあるもので、それら全てに対処することは困難でリスクを重視するだけでは楽しむ(よりよいもの)ことが出来なくなってしまうため対処すべき事柄、事象を選別しある程度のリスクを負うのも必要なのだと感じました。

私は基本的に慎重で JB 行事でもリスクなどは出来るだけ排除したいと考えているため今回の RM 研修を受け今までの言語化しにくかったものが理解出来たり、より具体的になにを考えたらいいかを理解でき今後に活かせるようなことも多く学べたので RM 研修に参加出来たことを喜ばしく思います。

私が今回学んだことは、リスクを予防することも大切だが起きてからの対処が迅速であるほうが良いということです。もう一つ、差別や偏見を受けている子供たちがいるように相手の立場や気持ちになって接することで問題や争いが少なくなっていくことです。

私は今までリスクを最大限減らしルールなど厳しくというのがリスクマネジメントだと思っていましたが今回の研修で対応の方法をいくつか学び大人に頼ることも必要なのだと改めて実感しました。

今回の研修では座学はもちろんありましたが、学ぶ上で体験してからや study by case でどうしていくかを学べたことでより理解度が深まり、リスクマネジメントの必要性を体感しました。

東海支部 加藤春奈

【感想】

昨年度に引き続き APRW に参加する機会をいただきました。今回はリスクマネジメントのトレーニングを受講しました。

今回は、スタッフ業務をしながらの参加でしたので、体力的に限界を迎えながらの真面目な内容のトレーニング受講で何度も集中力を失いそうになりましたが陽気なトレーナーと協力的なクラスメイトのおかげでなんとか乗り越えることができました。

日本大会のスタッフ経験者として、私の関心はキャンプサイトの様々な制約があるなかで、何が NG で、何が代替案で妥協できるのか、というポイントでした。もちろん CISV のルールとして必ず守らなければいけないものはありますがそれ以外については、客観的にリスクを評価して、優先度をつけながら柔軟に対応していくアプローチが重要だと学びました。スタッフ経験者として当時を振り返ってみると、大会



期間中は様々な問題で頭がいっぱいでどうしても冷静なアプローチが取りづらくなります。事前に考える全てのリスクを洗い出して、それを評価した上での現実的な解決策・軽減策の用意を支部側からサポートする必要があると理解しました。他の参加者とブレインストーミングをしながらケーススタディをやってみると、普段自分の国のメンバーだ

けではあまりでない観点も言及されており、またこちらも学びになりました。

他の国の参加者は支部で役職についている方々が多く、日頃の苦勞の話を聞くと CISV はボランティア組織として世界中でこのような多くの人の努力が積み重なって成り立って運営されていることを実感しました。自分も少しずつ CISV に貢献していけたらと思います。

4) TTT(Train The Trainers) トレーニングの内容と感想

【内容】

4/20①

■ アイスブレイク

- ・自己紹介や簡単な名前ゲーム、それぞれの経験を紹介する
- ・互いに居心地良く過ごすためにこれから共に研修を受けるメンバーについて知る

■ Expectations and Contract (期待することと合意形成)

- ・積極的な学習環境をつくるのにふさわしい態度や姿勢、特徴について話し合い、書き出す
- ・その中から最も重要だと思うものを選び、この TTT で守っていくガイドラインとする
- ・自分たちでガイドラインを作成することやそれに合意した証拠としてサインするのは自律的で積極的な姿勢を促すため、今後の研修に取り入れていきたい。

4/20②

■ Introduce recap and energizer groups

- ・Recap についての説明とグループ分けをした。Recap は TTT のセッションで習ったことを復習する目的で行われた。

■ Self-awareness and self-development

- ・簡単な質問に答えることで自分のタイプがわかるサイトを使用した。自分がどのタイプで他の人とどう違うか、自己理解を深めることができた。それにより自分がトレーニングを行う時に気をつけるべき点が明らかになった。

■ Facilitating learning

- ・自分が visual, auditory, kinesthetic のどれに当てはまるのかを各自検討した。強み、弱みをしることでトレーニングを行う時の注意点を把握することができた。

■ PDPEF

- ・トレーナーが用意してくれた表に参加者全員が名前を記載し、TTT のセッションで達成することが期待されている点について確認した。

■ Peace Education

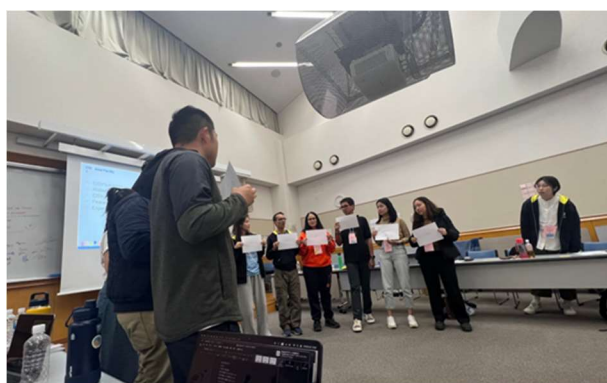
- ・CISV のミッション、歴史と起源について復習した。
- ・4 つの element について復習した。
- ・Active learning と passive learning について確認した。

4/21日①

■ Planning for an entire training

SU キャンプのリーダーに対してどんな研修が必要かをリストアップし、研修の順番やスケジュールを組むことを 3-4 人のグループで行なった。私のグループでは 2 日間の研修日程を組み、詰め込んだ研修になったが、他のグループの発表を聞く中で足りない研修もあった。またリスクマネジメントに関する研修を 2 度に分けて他の研修とサンドイッチするという案を出している班もあり、昨今リスクマネジメントについて厳しくなっている中で重点的に行うことは必要と感じた。

また研修セッションを、研修対象者が一つ一つ階段を登るように積み上げていく研修スケジュールを作成するのは本当に難しいと感じた。一方で、JNW や JAM など日本国内で実施されている実際の研修ともリンクしている内容であり、



来年度以降の国内研修でどのように活かしていくかにつながる非常に実用的なセッションであった。

■ Risk Management

トレーナーとして知っておくべきリスクマネジメントについて、また基本的な adult code of behavior などについても改めて知ることができた。また、Don't keep it secret のポスターなど新しく学ぶことも多くあった

4/21②

■ CISV International

・自分が CISV の一員として、各国のトレーナーとして、CISV International の組織図を学んだ。特に研修に関してサポートを受けられる体制があることを知ることができた。

■ Feedback

トレーナーとして参加者にどう批評・評価・振り返り(=フィードバック)を返すのかについて、フィードバックをする側・受け取る側両方の視点に立って考えた。また、フィードバック方法における種類とメリット/デメリットを検討した。

■ Introduce Practical

我々が実際にトレーニングを組む上で必要な考え方を学んだ。印象的だったのは以下のフレーズ “I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand.” (聞いたものは忘れ、見たものは覚え、行ったものは理解する。)こうした CISV の learning by doing という教育方針を再確認し、体験をベースにして重要事項を理解させるようなトレーニングの構築方法を学んだ。

■ Practical

この日の夕食後は、各班分かれて2日後の担当セッションの準備に勤めた。トレーナーからのサポートを受けながら、プランニングのためのテンプレートや、トレーニングカリキュラムなど、様々な CISV の公式リソースを駆使しながら考えていった。

4/22

■ Open Session

良いファシリテーターになるために、大人数から少人数のグループでどのようにファシリテートすればよいか。また、参加者の学びにつなげるために、どのような質問を投げかけることが適切かなど、具体的に意見を出し合いながら考えることができた。

■ Co-facilitation

トレーニングと一緒に参加しているみんなへの感謝を伝える方法を考えた。

4/23

■ Self-evaluation

この TTT 研修を通して自分が新しく学んだことや、今後トレーナーになるにあたって心がけていきたいことを各自が振り返り、共有した。フィードバックのやり方を意識したい、ディスカッションを上手く回せるようになりたい、常に新しい情報を獲得していきたいなどの意見が挙げられた。

■ Self-reflection and action planning

トレーナーとして2年後どのような姿になりたいか、そのためには今から何をしなければならないかについて考えた。2年後の理想像に近づくために来週から取り組めること、そして今年を通してやりたいことや取り組んでいきたいことについても考えた。

■ Participants deliver training

グループに分かれ、各班20分間のアクトのハンドリングを行った。セッションの時間外にもプランニングを行い各グループで話し合いを重ねながら準備を進めた。今回の TTT セッションを通して学んだことを振り返り、それらを取り込みながらアクトのハンドリングする実践の場となった。

■ まとめ

最後に今回の TTT セッションで学べてよかったこと、もっと学びたいことを共有した。また、来年の TTT をよりよくするためにどうすべきかの意見交換を行った。

【感想】

東海支部 大門由依



私は今回初めて APRW に参加しました！場所はオリンピックセンターと馴染みのある場所での開催でしたが、今回のために海外から多くの人を訪れていたためまるで違う場所のように見えました。オープニングでは参加者全員でご飯を食べ、開催国日本の盆踊りを踊り、各国の言葉で挨拶をし、大変盛り上がりました。

次の日から本格的にトレーニングが始まりました。導入では基本的なことの復習でしたが、その日に習ったことを次の日から分けられたグループでアクトを考えてハンドリングするということを通じて学びを深めました。後半にはプランニンググループにも分けられましたが、大変真面目な班で、夜中までプランニングと練習をしていました。そんな我々の姿を見た他の参加者の子供達が優しい言葉をかけてくれたので最後まで乗り切ることができました。

最後のフェアウェルでは TTT の参加者で写真や動画を撮りまくり、さらに来年はタイで再会しようと約束しあうくらいに素敵なメンバーでした。たくさんの学びを素敵な仲間とともにいることができる APRW に機会があればぜひともまた参加したいと思いました。

関西支部 川田歩

初めての APRW、TTT に参加しました。ジュニアの活動をしていた時に TTT に参加させていただきましたが、トレーナー資格が期限切れで失効したため今回、日本協会と関西支部から補助をいただき参加が叶いました。TTT への参加は、トレーニングの内容をどう自国・自支部に落とし込むかを考える良いきっかけとなりました。座学で学ぶ方法論等の新しい知識に加えて、セッショントレーナーがロールモデルとしての姿勢を示してくれていたのも、参加期間中ずっと学びがある、という 5 日間を過ごすことができました。また CISV らしく、参加者が主体となってプランニングするという機会も何度もありました。こうした実践を通して、私たちが研修を組む時に必要な視点や手順を学ぶことができました。



また、ジュニアの時に活動していた他国の仲間と 5 年越しの再会を果たすことができ、国際行事の醍醐味を味わうことができました。コロナを経たあとでもお互い活動を続けているということに感動を覚え、これからの再会がまた楽しみになりました。5 日間という短くも濃密な時間を過ごし、これから日本で、自分の支部でトレーニングをするということに対して、少し自信を持つことができました。最後になりましたが、今回の参加にあたっては日本協会、支部のみなさまのご支援を賜りました。この場を借りて感謝申し上げます、ありがとうございました。

関西支部 金谷玲子

今回、APRW に初めて参加しました。学生時代は国内の活動に勤しみ、なかなか日程のタイミングが合わず、APRW/JASPARC に参加したくとも参加できなかった私にとって、今回の参加はとても特別なものでした。初めての TTT であり、APRW であったのでとても緊張していましたが、素晴らしいトレーナーと参加者のおかげで充実した 6 日間を過



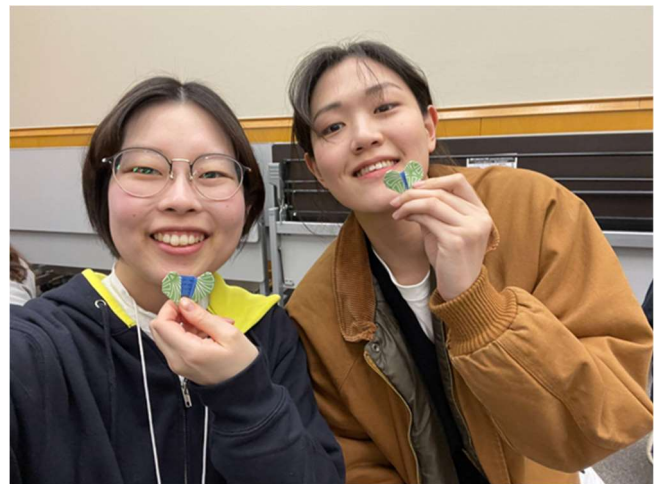
ごすることができました。TTT のセッション内では、国内の研修で学んだ知識の再確認はもちろん、既知の内容であっても、今までとは違う新しい方法で学ぶことができ、多くの学びがありました。また、これらの知識を得た後に、プランニング実践も行うことで、得た学びをさらに身につけることができましたと思います。また、今回の APRW は、国内のリーダー・スタッフ研修である JNW のすぐ後に行われ、JNW での研修内容も記憶に新しかったこともあり、今後の日本国内での研修をどのように発展させていくのかにもとてもいい刺激を得られたと思っています。私自身も今年度国際キャンプのリーダーとして派遣され、今後も国内の研修に関

わっていく立場となるので、今回の TTT 参加メンバーとともにより持続的で充実した研修を行っていくことができるよう尽力していきたいと思います。

最後になりましたが、日本協会、関西支部の皆様、ご支援いただき本当にありがとうございました。

東海支部 小野加奈子

CISV には子どもの頃 11 歳より関わり続けていますが、今回初めて APRW に参加する機会をいただき、全く新しい CISV の側面を体験することができました。自分にとっての CISV は国内行事(研修や集合教育、季節の行事など)と国際行事(各プログラムの実施)の 2 軸で、それ以外の活動には今まで参加してきませんでした。今回初めてアジア太平洋地域の CISVer と共に学び体験することを経験して、地理的な距離やバックグラウンドが近いからこそその安心感や心強さ、連帯感を感じることができその意義深さを実感しました。



自分は今後支部でのスタッフ研修や国内での新リーダー研修に携わることになるため、今回基礎から実践までセッションを通じて学ぶことができ今後にとって大きな助けになることと思います。今回参加した TTT のメンバーの中にはすでに支部でのリスクマネージャーや教育担当を担っている人もおり、グループワークの中で彼らの経験を聞いたことも学びとなりました。振り返るととても楽しくあっという間の 5 日間でしたが、同時にその短い中でこんなに濃密な学びがあったのかという驚きもあります。機会があればまた APRW に参加したいと思うほどいい経験をさせていただきました。ご支援いただきました日本協会と東海支部の皆様への感謝を申し上げます。今後ますます尽力して参りますので、今後ともよろしくお祈いします。

STC部会長 伊藤翔生

アフターコロナ・社会全体そして CISV の大きな転換点でもあるこの時期に、STC 部会長として参加した今回の APRW (TTT)。Safeguarding システムの導入、Village カリキュラムやプログラムガイドの改訂、そして冬派遣の中止など未知なことがたくさん起こり、これまで以上のトレーニングが必要であると感じていた。今回 TTT に参加する大きな目的としては TTT 有資格者のネットワーク作りをすることだった。近年の LTC・STC のトレーニングではパストリーダーやパストスタッ



フが担当を支部ごとに分担して研修を行っており、努力はしてくれているものの、わからないこともあるまま研修をしていることもあり、研修の質は保証できていなかった。自分自身が TTT に参加することで、知識を得るとともに、有資格者に協力を仰ぎ、研修のレベル向上をはかっていく。具体的には、JAM や JNW といった四支部合同の研修において、有資格者主導による研修のプランニングを行なっていく予定である。それを行う懸念点としては一部の有資格者に負担が偏ってしまったり、過去のプランニング機会が減るため知識の蓄積量が一部で減ってしまったりすることが予想されるため、今後検討していかなければいけないこともたくさんあるが、今回の TTT での学びを生かしながら今回一緒に TTT を受けたメンバーと一緒に良いトレーニングを行なっていきたい。

今回参加させていただくにあたり、日本協会と東海支部、APRW のスタッフの方々へ感謝申し上げます。LTC・STC への還元が1番の恩返しだと思うので、今後もしっかりと活動して参ります。

関西支部 白石結莉

昨年リーダーとしての派遣を終え、今年から LTC としての活動が始まるため、トレーナーになるための知識やスキルを獲得したいと思い、TTT セッションに参加しました。TTT を通して学んだことは、どんな研修を誰に対して行うにしても、研修を行う環境や話し方、内容の伝え方次第で、研修の受け手の理解度を大きく上げることができるということです。ディスカッションの進め方やフィードバックの行い方ひとつにしても様々な方法があり、研修の参加者やその場の状況を加味してそれらを実行できるトレーナーにならなければならないと痛感し、同時にその姿を見せてくれた TTT トレーナーを目標に今後の活動に参加していきたいと思いました。



また、CISV の研修は誰かから与えられるものではなく、自分たちで創り上げていくものであることを実感しました。環太平洋アジアの国々から参加した仲間と研修を受けたことを通して日本はもちろん、世界中の CISVer と協力しながらよりよい CISV のトレーニングを作っていきたいと感じました。変わりゆく世界情勢の中で CISV のあり方も日々変化しています。その中でも自分たちと世界を繋ぎ、国際平和実現のため、トレーナーとしてどのようなことができるのかを考えながら活動していきたいと改めて強く思いました。

最後になりましたが、今回の APRW 開催にあたり尽力してくださった日本協会や関西支部、関係者の皆様にお礼申し上げます。この経験を還元していけるようにこれからも活動していきます。

5) Youth Meeting トレーニング内容と感想

【内容】

YM トレーニングでは、プログラムの概要目標などの基本的なところから、リスクマネジメント、LGBTQI+ など深い部分へと進んでいくとても有意義な時間でした。はじめに自己紹介、これまでの CISV 経験、このトレーニングで何を得たいか、YM についてのイメージを書きこれからの研修に向けてのスタートを切りました。改めてみんなの考える YM のイメージを聞いて、YM のイメージがさらに膨らみ広がりました。その後は YM の①スタッフグループ、②リーダーグループに分かれて実際にやるべきことを書き出し、結果を交換してさらに書き加え完成させました。最後に全員で YM スケジュールを 8 日間バージョンと 15 日間バージョンを作成しました。

2日目は、8日間と15日間のキャンプスケジュールをさらに深めました。15日間ではASKやタックマンモデルに沿って充実したスケジュールを作成することができました。一方の8日間のスケジュールでは、全員が同じ意見で子供達に適切な教育を提供するには短く、そのうえでどのようなことができるか考えました。午後は3グループに分かれ旅行を考えるセッションを行いました。ディスカッションの中で、ミッションを与えられたメンバーがあり、どのように議論を導いていくかを学ぶセッションでした。ファシリテーターは参加者に強制するのではなく、暗にゴールに向かわせる必要があるということ学びました。

3日目はスキット作成やオークションなどのアクトを実際に行いながら、フィードバックの方法や価値基準の違いを考えていきました。これをCISVというLearning by Doingの時間でした。

最終日のメインテーマは「リスクマネジメント」でした。前日にトレーナーが私達に宿題を出しました。『私たちが参加したエクササイズをリスクマネジメントの観点から査定せよ!』という内容でした。移動手段として大都市東京の地下鉄を使う際の注意すべきこと、サインやユニフォームなど目印が有効なこと、事前に参加フォームを確認して参加者の健康状態、能力(水泳など)を知る必要があること、など活発に話し合いました。次にリスクマネジメントのR7(POSITIVE BEHAVIOUR POLICY)について学びました。Forbidden BehaviorとInappropriate Behaviorの違いについて、当てはまる行為を分類するグループディスカッションをしました。どれもForbidden Behaviorに思えるなどと話ながら分類しました。実際その考え方については文化の違いなどから各国で違いがありますが、CISVのR7のルールを規範として子供たちを守ることが重要とまとまりました。つぎにWhat does LGBTQI?+stand forについて学びました。キャンプサイトでもジェンダーレスの部屋をつくる、トイレや着替え室についても配慮が必要など知識を得ることができ、また各自の知識を更新する必要性を感じました。最後にこのトレーニングを率いてくれたトレーナーのナディア、共に学んだインド、ベトナム、中国、モンゴル、日本の参加者、またこのAPRWを準備して下さった日本協会の皆様に感謝申し上げます。すてきな機会を与えて頂き、ありがとうございました。



【感想】

YM 部会長 宮田聖未

3月に数年ぶりに東京で開催されたAPRWに、参加者兼開催スタッフとして参加させていただきました。参加者として参加したユースミーティングトレーニングのプログラムでは、ユースミーティングのキャンプを作るにあたって必要な基本的な知識から、キャンプの運営方法、リスクへの対応、多様な子供たちとの関わり方等、幅広い内容について学びました。インド、中国、ベトナム、モンゴル、日本から集まった受講者は、リーダー・スタッフ経験者から親御さんまで多様なCISV経験とバックグラウンドを持っており、4日間かけてじっくりとディスカッションを重ねながら、CISVやユースミーティングに関する理解を深めることができました。今回のAPRWは、私自身にとっても、昨年リーダーとして参加させていただいたユースミーティングの経験を客観的に見つめ直すとても良い機会でしたし、今後日本で開催するユースミーティングのプログラムをより良くしていくために、今回学ん



だことを積極的に国内のトレーニングにも還元していきたいと思います。

APRW の準備及び参加を通じて、たくさんの貴重な経験をさせていただき、国境を越えた CISV の繋がりがより一層広がりました。開催を支えて下さったすべての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。APRW 開催中は、CISV らしいアットホームで暖かい雰囲気を毎秒肌で感じながら「CISV っていいな～」と改めて実感しておりました。今回東京に集まった参加者一人一人が APRW で学んだことを持ち帰り各国の CISV 活動の発展を支えてくれるととても嬉しく思います。

東海支部 小島秀紀



9年ぶりの国際行事への参加であり、APRWへは初参加でした。YMセッションへの参加でしたが、非常に学びの多い時間になりました。キャンプを1から作り上げていく実用的なセッションから、リスクマネジメントなど知識をブラッシュアップしていかないといけない分野など多岐にわたりました。YMスタッフをやったのは10年前のため新たな取り組みが多くあり学び続ける必要性を感じました。またほかの参加者から最近のキャンプの様子や取り組みを聞くことができ、これからの取り組みに欠かすことのできない知識を得ることができました。

また、久しぶりの参加でしたが、自分がリーダーをやっていた時のキッズや、JNW でセッション担当をしていた時の当時の新リーダーとの再会があり非常に楽しい時間でした。いままでの活動でも未来へつながる活動に少しは貢献できていたのかなとうれしい気持ちになり、この活動を続けることの喜びや意義を感じる時間になりました。

今回の時間をいただいた日本協会はじめ、スタッフの皆さんにこころからの感謝を伝えたいです。ありがとうございました。今回の経験を東海支部に還元しつつ、少しでも多くの人にこの活動のすばらしさを感じてもらえるように頑張っていきます。

東海支部 後藤洋弥

今回初めて APRW に参加しました。YM のセッションを受けました。他の参加者とともに YM について理解を深めていく中で、新たな発見や気づき、一方で問題点なども見つけました。トレーナーの教え方がとても上手であったため内容がとても面白いもので充実していたため、次回の APRW もタイミング合えば参加したいと思っています。



九州支部 富岡寛子

I experienced that communicating with people from other countries increases my confidence.

多国籍の方とのコミュニケーションを取ることが自信につながることを経験しました！

また、各国の参加者が YM リーダーとして、またサポートスタッフとしての経験豊富で、とてもためになる経験談を聞いてさらに興味関心が深まりました！



関西支部 松原郁子

今回のワークショップで 200 名超のアジア環太平洋の CISVer が集い、ウェルカムパーティーで国毎に紹介があり、

ウワーと歓声が上がった瞬間の高揚感は今でも忘れられません。



参加した YMトレーニングでは CISV の理念のもとで YM プログラムを内容、役割、リスクマネジメント等多方面から分析し話し合い、年齢や役割の違いを超えて交流できるこの貴重な機会を幸せに感じました。特にマイケルが「アジアの集まりって(親近感を感じて)いいな」と言っていたことが印象的でした。アジアパシフィックとも世界ともつながることができる CISV はなんて素晴らしいのでしょうか！この思いを支部に持ち帰り、多くの人たちに伝えたいです。

今回はほんの少しお手伝いさせて頂き、この大規模なワークショップを開催するためスタッフの皆様が寝る間を惜しんで尽力されている姿に頭が下がりました。この APRW 東京を開催してくれた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

6) Step up トレーニングの内容と感想

関東支部 越部真

2024 年 3 月 19 日から 24 日の 5 日間にわたって東京、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された APRW に、ステップアップ(SU)トレーニング受講者、および遠足担当大会スタッフとして参加してまいりました。

SU は 23 日間に渡って 14~15 歳を対象として行われるテーマキャンププログラムであり、私が初めてリーダーとして参加したプログラムでもあります。近年、CISV ではこれまでテーマを深堀する必要がなかったビレッジやコースミーティングでも、開催期間中のアクティビティにはテーマに関連する要素が必ず求められる、つまり「テーマ」に基づいた「学び」がアクティビティから得られることが強く求められるようになってきました。SU はもともとテーマに基づいた学びが必須でしたので、こうした変化には大きく影響はされていません。つまり、言い換えればビレッジやコースミーティングがステップアップに近寄った形です。



そうした背景もあり、トレーニングの内容はいかに子どもたちに対してプログラムを通じて成長を促せるか、ということ比較的旧来通りの目的に主眼を置いた内容でした。その中で特に印象的だったのは「コロナ禍で子どもたちの行動が変化したのではないか」という議論です。直近でステップアップにリーダーとして参加した受講者からは、「知識量はインターネットで誰よりも多いが、その知識をどう使うかまで考えが及んでいないのではないか」という意見でした。変化する参加者や時代に即してプログラムもまた変化していきます。この変化に適切に対応していけるよう、引き続きアップデート怠りなくできればという思いが強くなった今回のトレーニングでした。

7) JASPARC の内容と感想

【内容】

Intro session

一人ずつ名前をかいたバルーンを作り、ひとつだけ拾って、その名前の人とつながるアクティビティをした。結果的にみんながつながるようになった。また 2 重の円になり一対一で自分の CISV 経験や価値観、学業などについて話合った。

Circle of Nations

すべての国が各国の一年間の行事を説明する。TEA の国々の発表はなんとなく雰囲気わかるが、ほかの国の発表は内容が分かって雰囲気伝わりにくい。

ほかの国から Inspiration を受けて新たなイベントを実行してみたいが、どうしたら雰囲気も伝わる発表になるだろうか。またこのセッションでの発見として、Pre-camp と Mini-camp は概念が日本と他の国で異なることがわかった。Mini-camp は一泊二日くらいの JB や派遣に興味がある新しい人に向けての行事らしい。

JB Culture

JB ゴールとは別に、JB Essential という JB の公式な目標があることを知った。

JB essential :1. All JB's are part of a global movement.

2.All JB's work toward the JB Goals.

3. JB's are constantly developing,

4. JB's are self-governing entities.



そして CISV のすべてのキャンプで起こりうる、考えられる抽象的な Word(よくその言葉を聞いたり、それが推奨されるべきだが実際にそれだけを説明することは難しいこと)を挙げて、それを JB ゴールに当てはめていくことで、JB ゴールの深い理解を狙った。

その後、人が異なる文化(ここでは JB culture)に適応する4つのプロセスを学んだ。

“Unfreeze, Change, Refreeze, Explained”

それらのプロセスのために必要な JB ゴールまたは言葉を挙げ、そのプロセスを理解した。

Communications

アクティビティとしては、プランナーが考えた不思議で洗練されていないエナジIZERを最初にやり、チームにわかれてそれを改良した。

Communication には個人対個人、Zoom out(キャンプ内での小さなグループ)、After camp(キャンプ後の人間関係)、Chapter(のようなより大きな組織)の4種類があり、そのすべてにおいてミスコミュニケーションを防ぐ必要がある。その手段として、Feedback がある。その練習をした。

Neighborhood meeting 1

それぞれの Neighborhood で一つ、そこに関するエナジIZERをつくった。TEA は TT 兄弟をモチーフに各言語で TEA をどのように言うかを含めた。

そして一年間を通して TEA がどうであったかを話し合った。先日の TEA で決まった来年の TEA に関する情報などをシェアした。

Common session

CISV 全体の組織としての戦略や目標を学ぶ。その目標では 10 年ごとに大きな目標があり、今年ちょうど半分であるがどんな進捗具合かを共有したあと、自分たちがコロナの 2020 年からここまで復活するためにどんなことを試みてきたのか発表し、今一度このように通常の APRW & JASPARC が開催されていることに感謝することができた。

Leadership+Teamwork

自分がどんなタイプのリーダーか、自己認識し、共有した。自分の性格を客観的に見つめなおすことができた。過去の CISV 経験をもとに、どのようなリーダーになるべきかがわかった。また JB は次にリーダーやスタッフになるというプロセスが意識された質問もあり、今後の JB 活動において、どのように新 JB やキッズに教育するべきかを意識する機会にもなった。

Resource Management

国や支部に分かれ、それぞれ不足している資源を5つと充足している資源を3つ挙げた。CISV 活動の意味合いが支部や国ごとに大きく異なることを発見した。例えばフィリピンでは、貧困が身近に存在する状況に直面することが CISV 活動の軸のひとつである。状況に応じて連絡を取るべき人(支部や国の代表)を考える機会もあった。

Facilitation

一日新 JB に向けて行うキャンプの内容をグループで決めた。今後 JB 活動を始めていく上で必要なことも学びつつ、楽しい要素も入れる必要があった(そうしないと参加者が持続しにくい)。)

自分の班のポイントは、Generate をする時間をアクト内に設けるのではなく、Fun アクトとして CISV レースを終わらせ、ランチタイムにひとつ前のアクトで考えたことをスタッフが小さな規模でのコミュニケーションで引きだそうとしたことである。

CISV+Digital Literacy

Governing board member の一人と IJR が CISV の組織形態について教えてくれたのち、CISV の重要なドキュメントである C-01 と C-04 についてどんなことを含んでいてどう重要なのか説明してくれた。私が驚いたのは、Governing Board の力、member の定義、member の持つ力について、法律のように定義しているということだ。また JB を Member のひとつにするかしないか(もともとはしておらず最近 member になった)についてだいぶ深いところまで話し合った。

Neighborhood Meeting 2

“ We are ○○, of course ○○ “の形で、各 Neighborhood のカラーが出る映像を一分で作った。またそれぞれ代表者が全員に向かって、その Neighborhood の今年一年間の流れ、今年成し遂げたこと、今後の目標やアイデアを発表しあった。この発表によって、他の Neighborhood も苦労して、この近隣諸国というチームを維持しているんだとわかり、参考になった。

Inclusive

Diversity Equity Inclusion というもとの形に、Belonging が加わった、DEIB という姿勢に CISV の取り組みが変わってきていると知った。

人間がそのコミュニティーに在るには3つの段階がある。まず存在はしているけど、内部に包摂されていない、アウトサイダーな状況。その次の段階が、参加しているけど、標準の規範に合わせなければいけない段階。そして最後が Belonging であり、自分がそこにいていいと確実に安心し、自分の個性を発揮できる段階である。

International & APJB

いろんなシチュエーションごとに分けられ、それを解決するなにかをプランニングした。そのとき IJB Resource の用紙も使った。

私がここで一番学んだことは、各国の Core member や Board member になるためのプロセスだ。国ごとの人間性が表れており、とても興味深かった。部会がない国がどのように運営しているのかもわかった。

同時に、How と What の違いがいまだに少しわからないままになってしまった。

Joint APAC

Joint APAC と JB101 の部屋に分かれて、自分が行くべきところに行くスタイルを取った。APAC の方では、CISV で今使っているコミュニケーションツールが9つあり、(Email list, Member News, Program News, Fireside Chats, Townhalls, My CISV, Sharepoint, Surveys, Social Media)

それらをどうしたら今後より使いやすくなるかなど自分たちの考えを大人と JB が混ざってシェアした。ものによっては自分たちが一度も触れたことのない物があり、話し合いのなかで教えてもらった。

また Chapter がどんな状況(どんな resource があるか、大人と JB の関係性など)かをシェアした。

APAC は各国の代表の会議であるだけに、とても人間関係が重要だと思った。

JB101 のほうでは、少し授業っぽくなってしまったが、JB 活動に必要な用語や知識の再確認、これまでのセッションのフォローアップが行われた。

Common Session (新しく炭素に配慮する取り組みについて全体に発表された)

Mingle+Share

自分がこの3日間を通して、CISV に包括されたと感じるか、から始まり、CISV/JB 活動において、自分たちが直面した個人的または組織的な困難を挙げ、それを解決するためにほかの国や支部に助けてほしかったことを考えた。特にお金のことは、やはり多くのところが不足していると言うものの、自分たちでどうするかを具体的に話すことは難しかった。

Who am I in my JB?

- 今回の JASPARC から持って帰ること

- ・このカンファレンスが自分の JB での役割を理解するのに役立つ部分
- ・一番よかったセッション
- ・この JASPARC 後、どのように JB に取り組むかを話し合った。

同じグループにたまたま 2 年前の JASPARC から一緒に参加していた人が一緒に、話が通じやすくうれしかった。JASPARC のアルファベットにそれらを記入し、写真を撮った。

Future of the JB

IJBC で何が行われるのか、今年の IJBC のキャンプ概要など、是非参加してほしいと IJR が言っていた。また EMER JB や AJB も JASPARC と同様のカンファレンスを行っており、そこでの雰囲気などを説明してくれた。

Representation with APAC

APAC に参加した国際理事やコーディネーターの木村緑さんと一緒に円になって、コミュニケーションを図った。こういう状況のときにどういう風に連絡がいくのか、役職者にしか届かない News の使い道、日本の現状の役職や支部の立ち位置について、話しあった。

Closing Session

APJB Team のジュニアの選挙がもうすぐなので、その立候補や推薦の日程確認。APJB の仕事内容、雰囲気などをこの JASPARC で引退してしまうシニアに質問した。そして Lovina と Jannat がコメントを残し、感謝の意を示した。

【感想】

東海支部 神谷佑志

今回、私は初めての JASPARC だったので少し緊張した。しかし日本開催であったこと、優しく声をかけてくれる方がいたことのおかげですぐにその緊張は解けた。とても多くの方々が来ていたので、CISV という団体の凄さを改めて実感した。

セッションでは全てが新発見で CISV の JB のあり方や、これからの CISV、社会など考えさせられるものが多かった。日本だけでは出てこない意見や世界が直面している社会問題について話せて視野が広がった。1 番心に残っているセッションは、APAC と一緒にやった「joint APAC」だ。今の私にはとてもついていける話ではなかったが、CISV の最先端の話をしている気がした。近い将来、私も APAC の会話についていけるように CISV をもっと知ろうと思った。

エクスカージョンでは日本の文化を伝えるのと同時に外国から来てくれた参加者に楽しんでもらえるように動いた。私は剣道経験があるので剣道体験をやった。英語で日本の文化を教えるのは難しかったが、とても貴重でエキサイティングな経験だった。時間が押しすぎて、所定の時間の電車に乗れなかったり、人数が揃わなかったりと色々なイレギュラーな事態があったがみんなが楽しんでいたのが成功したと思っている。

今回、私はこの JASPARC では初参加だったので知ることが多く、受け身で参加していたが、来年参加する時は来年初参加する人たちに色々教えられるようにしていきたい。



関東支部 西山世里奈

今回の APRW & JASPARC が日本開催であることを、とても誇りに思う。直接的になにか運営をしたわけではないが、遠足を企画できたことはとても良い経験となった。また関東支部で行われたので、以前の参加の時より、運営のことや全体の流れのことをよく考えた。

今回で 3 回目の JASPARC となる。3 回目にしてようやく全てのセッションにおいて腑に落ちることがあった。JB についての理解が増え、わからないことが明確になったからだと思う。そして同時にまだまだ不足している(反復が足りない)

と思うことも多々あった。大人の方や APJB Team を見ていると、まだまだ知らない Member や組織がいて、それらの説明をスムーズに行なっている。



JASPARC において今回 1 番精力を注いだところは、セッションで出てくる話しあうべきタスクの前提知識をそのチームで共有することである。ただし人数が少ないチームのときのみだ。そこで各国の JB の立ち位置や、大人との関係、選挙の方法などその国の人にはしか聞けない情報を得た。プランナーの立場から見ると、自分の目的に直接的に向かっているわけではないので肯定はできないが、そのセッションで参加者が学びを得て刺激を受けたのであればそれも良い学習なのではないかと思う。

最後に、大人数の JASPARC に NJR という立場で参加することで困難になったと感じることがある。それは自分が即座の回答を求められること(しかも英語)と特に同じ国の参加者に気を配り、時には自分の新たな学習を放棄してでも、参加してくれた人の理解を助けることが必要であるということだ。これは 2022 年には感じられなかったことだ。

東海支部 鈴木結理

初参加の JASPARC、とても充実した5日間でした。昨年は TEA に参加させて頂き近隣国での交流をしましたが、今回は参加地域も人数も多く少し緊張しました。けれど、セッションを通じて意見をシェアしていくうちにみんなとあつという間に打ち解けました。一度に他国を含めた大勢の参加者を目の当たりにして、CISV はこれだけ多くの方達のサポートの上で成り立っているんだと改めて実感しました。CISV 活動に参加すると、まずはアクションを起こしてみる大切さと積極的に意見発信することに恐れず、オープンマインドである事の大切さに気付かされます。

特に印象に残ったのは、自国の JB 活動において充実しているモノと反対に足りていないモノをデリゲーションごとに考え、シェアした Resource セッションでした。日本での JB 活動における強みと弱みを認識し、今後の活動においてどのように管理すべきか学びました。また、世界平和が気候変動に大きく関わっているとして今後の CISV でのキャンプやイベントにおいて環境問題について考える必要性を感じました。

JASPARC に参加する前までぼんやりとなっていた事もセッションを通じて明確になり、とても有意義な時間を過ごしました。分からないことも優しくみんなが教えてくださってとても温かい気持ちになりました。JASPARC では他のイベントと比べてセッションを沢山受ける点で大変でしたが、どのセッションも充実していました。何より CISV について前より深く知ることができたのが嬉しかったです。

セッション外の時間には仲良くなった友達と周辺に出かけたり、夜遅くまで互いの国の文化の違いから深い話までしたのが思い出に残っています。とにかく5日間があつという間でした。

最後に、この素晴らしいワークショップを企画してくださった日本協会の皆様、JASPARC、APRW の皆様、本当にありがとうございました。この5日間を通して学び吸収したことをこれからの国内活動や国際イベントに向けて活かしていきたいです。

